

食と栄養のコミュニケーション [ボタラヴィ]

Botala Vie

Contents

Topics

顧問ドクターご紹介
こころ・身体・食事から病を治療する
ハタイクリニックの統合医療

BOTALABO PRODUCT

プロ格闘家の体づくり
「いのちの鎖」

Bota la Vie Recipe

「夏バテ対策料理」

[合併号]

7・8

2024 Jul. & Aug.

ココロ・身体・食事から病を治療する ハタイクリニックの統合医療

ボタニック・ラボラトリーでは、食と栄養の重要性を発信すると共に、国内外の統合医療のドクターと連携し、安全で効果的な治療が受けられるクリニックの紹介や統合医療に関する様々な情報をお届けしています。ボタラボグループは新たに、統合療法コンベンションに登壇したハタイクリニック院長 西脇俊二先生を顧問ドクターとして迎えることとなりました。今回は、西脇先生が取り組む統合医療と予防医学の考えに迫ります。

統合医療の必要性

ほとんどの先進国で主流となっている近代西洋医学は、新しい科学技術により著しい進歩を遂げ、数多くの疾病の治療に大きく貢献してきました。一方で、病気を取り除くことに治療の主眼が置かれ、このころのケアや再発予防、健康増進など、個々の患者のニーズに必ずしも応えることができていない現状があります。

そうした患者のQOL(生活の質)の向上や生活習慣の改善、病気の予防までを含めた治療やサポートを可能にするのが、鍼灸や指圧、食事療法、温熱療法などの様々な補完・代替医療と西洋医学を組み合わせて行われる「統合医療」です。

精神科医師でハタイクリニックの院長である西脇俊二先生も、都内で有数の統合医療を実践するドクターのひとりです。日本アーユルヴェーダ学会上級教師でもある西脇先生は、漢方

医学やアーユルヴェーダをはじめとする伝統医学、糖質制限やオーソモレキュラー(分子整合栄養学)など、副作用の少ない治療法を組み合わせ、がんや難病、アレルギー、精神疾患を抱える患者一人ひとりに寄り添った、オーダーメイドの治療で成果を上げています。

がんの性質を利用した治療

がん細胞は主にブドウ糖を栄養にします。この性質に着眼し、誕生したのが「IPT(インスリン増感療法)」です。がん細胞は正常細胞に比べて8〜16倍もインスリン受容体がある特徴を利用し、「通常使用する量の10%程度の抗がん剤とインスリン」を同時に投与することで、がん細胞に効果的に薬剤を取り込ませることが出来ます。

この療法は1930年にメキシコで発案された療法で、副作用や免疫抑制などがほとんどなく、高い治療効果を得ることが出来ます。

また、がんが好むブドウ糖に構造が似ているビタミンCを用いた「超高濃度ビタミンC点滴」も採用されています。がん細胞内に取り込まれたビタミンCは、強力な酸化剤である過酸化水素を発生させ、制がん作用を発揮します。この治療は、免疫システムの増強、痛みの軽減、抗がん剤による副作用の軽減などが期待されています。

他にも、細胞内で活性酸素を発生させてがんを死滅させる分子型ヨードを用いた「ヨード療法」や、強い酸化作用を利用した「水素吸入療法」など、幅広いがん統合医療を展開しています。

難病治療と最先端の検査

ハタイクリニックでは、難病や自己免疫疾患、アトピー性皮膚炎に効果的な「免疫置換療法」や、若返りや健康増進にも役立つ「幹細胞培養上清液」を使った治療を受けることができます。免疫置換療法は、皮内に異常のない抗体を注射し、症状を引き起こす抗体と置き換える画期的な治療法で、日本で受けられる場所はまだ数箇所しかありません。実際にハタイクリニックでは、重度のアトピーやぜんそくなど多数の改善例があり、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎などの治療に役立てられています。

西脇先生は、予防医学はもろん、がんの早期発見に対する検査も重要視しています。がんの中でも5年生存率が最も低いとされているのが膵臓がんです。日本では、2013年以降毎年3万人以上の人が膵臓がん で亡くなっており、その数は毎年数%ずつ増えています。(国

立がん研究センターがん情報サービス)

ハタイクリニックでは、採血のみで膵臓がんの早期リスク判定ができる、世界最先端の研究をもとに開発された「テオリア検査」を受けることができます。同じく血液検査でがんの早期発見ができる「CTC検査」や「がんの発症のしやすさを調べる「がん遺伝子検査」、抗老化力を調べる「長寿遺伝子検査」なども採用しています。CTC検査では、どんなサプリメントが自分のがんに効くか、どの抗がん剤が自分に合うかが分かるため、有効な治療法を選択しやすくなる大きなメリットがあります。

栄養が自然治癒力を高める

近年では「健康診断で異常なしと言われたが体調がすぐれない」「薬を多く服用しているのに病気が改善しない」といったケースが増えています。これに対して西脇先生は「現代医療に栄養療法的な観点欠缺している

る」ことを原因の一つと考えています。

ハタイクリニックでは、うつ病や統合失調症をはじめ、がん、心臓病、糖尿病、アトピー性皮膚炎、更年期障害などの症状に対して、検査データを基に食事指導やサプリメントを用いた治療を行っています。西脇先生は治療において「欠乏しているビタミン、ミネラル、アミノ酸、酵素、必須脂肪酸などを補完することで、身体が本来持っている自然治癒力を最大限に引き出すこと」を重要視しています。

西脇先生には今後、特別講演会の開催や統合療法コンベンションへの登壇、健康指導師の月例会などで特別講師として登壇いただく予定です。7月15日(月・祝)にボタニック・ラボラトリーにて、西脇先生と森山晃嗣のラボセミナーを開催予定です。病気の予防や健康増進、統合医療に関心のある方は、ぜひご参加ください。

開催決定

西脇俊二先生 特別セミナー

会員の皆様にご紹介も兼ねて、西脇先生が行っている治療法について、西脇先生と森山晃嗣のラボ講演を行います。詳しくは同梱のチラシをご参考ください。

■日程:2024年7月15日(月・祝) 13:00~16:30
■参加費:会員/3,000円(税込) 非会員/5,000円(税込)

メインメニューのセミナー情報よりお申し込みください

LINE お申込み
公式アカウントから



2024
7&8

食べて身体を強化！ 夏バテ対策料理

Botalabo Resire

暑い季節がやってきます。今回はアレンジ次第で色々な料理に活用できるレシピをご紹介します。レシピを考えるのが億劫・・・という時にも是非ご活用ください♪



豆腐と山芋でスタミナUP！

手作りがんもどき

材料(5人分)

- 木綿豆腐…1丁
- 重ね煮…適量
(※下記レシピ参照)
- 山芋…10cm
- ココナッツオイル ナチュレオ…適量

作り方

- 1 豆腐を水切りして重ね煮(※下記レシピ参照)と山芋の擦りおろしを混ぜたものを食べやすい大きさに丸める。
- 2 ココナッツオイル ナチュレオを熱して両面をサッと揚げる。

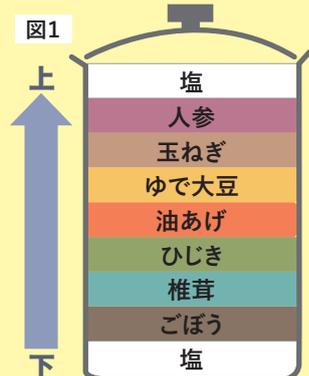
重ね煮のレシピ

材料

- 塩…適量
- 人参→細切り…適量
- 玉ねぎ→スライス…適量
- ゆで大豆…適量
- 油あげ→細切り…適量
- ひじき…適量
- 椎茸→細切り…適量
- ごぼう→ささがき…適量

作り方

1. 野菜を切って図1の順に重ねて弱火にかける。
2. 蒸気が出たら10分ほど煮て醤油を回しかけて混ぜる。



アレンジ色々！

ニンニク味噌

材料(4人分)

- にんにく…丸ごと1~2玉
- ココナッツオイル ナチュレオ…大さじ1

〈A〉

- 味噌…150g
- ココナッツシュガー…大さじ3
- みりん…大さじ2
- 酒…大さじ2
- 天然ペプチドだし…大さじ1

作り方

- 1 にんにくは皮を剥いて小さめに切っておく。
- 2 Aをブレンダーで合わせ混ぜる。
- 3 フライパンにココナッツオイル ナチュレオを熱してニンニクを炒める。香りが立ったら2を一気に入れ炒める。軽く水分が飛びいい香りがしたら出来上がり。

お味噌汁や炒め物にも！



レシピサイトで紹介中！

その他スタミナがつくレシピを多数揃えています。さらにプレミアム会員様(月額400円)は限定レシピを含めた全てのレシピが見放題!この機会にぜひご登録ください。

登録はこちら♪



宮城県在住 60代 Aさん夫婦の場合

ボタラボ体験談

私の栄養スイッチ

Testimonies

職場などの健診で「がん」が発覚するケースは少なくありません。通常は、精密検査を受けて正式にがんと診断された時点で、主治医と家族との間で治療方針を話し合います。しかし今回は、標準治療である手術、化学療法、放射線治療の対象にならず、もっぱら食事と栄養でがんを抑え込んだ事例を紹介します。何が功を奏したのでしょうか？

1年未満で妻のがんを食と栄養でしっかり制御

宮城県在住のAさんご夫妻は、ともに60代。ご主人は2年ほど前に定年退職、現在は自動車関係の会社で週3日働いています。奥様は現役の公務員です。夫婦仲はとても良く、ご主人は朝先に家を出て、帰りが遅い奥様のために食事を作っています。

夫婦の日常に影が忍び寄ったのは2023年の3月末。職場の健康診断で奥様の体に異変が見つかりました。総合病院で内視鏡検査をしたところ「胃がんのステージ1です。間違いありません」と告げられました。しかしご主人は「本人には特に自覚症状がなく、気に病む様子でもなかったのだから」と思っていたそうです。それもあって奥様にある提案をしました。

それはボタニック・ラボ ラトリーの「がんの方のための食事実践講座」への参加でした。ご主人は30年以上前に友人から正常分子栄養学のセミナーを紹介され、森山晃嗣先生の講演会に何度も足を運びました。また、当時ご主人の叔父様が人工透析を受けていたので、森山先生からの適切な助言を頂戴したいと思い聞きに行かれたそうです。

その時に森山先生のお話に感動し、自らも健康やビタミンに関係する本を読み、勉強されました。以来、健康づくりには食と栄養が大切だと考え、生活にも取り入れてきました。

がんの方のための食事実践講座に参加して森山先生に指導を仰ぎました。栄養療法を勧めていただき、

実践を始めました。加えて、温熱治療器「ひまわりα」を購入し、身体を温めることにも取り組みました。

その後、奥様は2ヶ月後の6月に再々検査を受けたところ、医師から「がんは見えないようですが、ピロリ菌が通常の100倍あり、炎症してると思われる」と診断され、まずはピロリ菌の除去治療を行いました。

そして年が明けて2024年3月の内視鏡検査ではなんと奥様の胃がんは「消えていた」のです。

がんが発覚してわずか1年未満のことでした。ポイントとしては抗がん剤などは行わずに、肉や魚、野菜、豆腐などの栄養バランスを考慮した食事と栄養補給を続けたこと。30年前からサプリメントやマルチビタミンを毎朝摂取していることに加え、1年前からさらにグリーン、レッドビーツ、キャロット、オメガミネラル、ミネラル77、ココナツオイル、G PURE(プロテイン)、スー

パーB、B17のサプリメントなども欠かさず定量補給しています。最近ではレーザーウオッチも就寝時に装着しているとのこと。

甘いものが好きだった奥様は、以前ほどは口にしなくなりました。「砂糖はがんの餌」との森山先生の教えを合言葉として、「病気にではなく、健康維持にお金をかける」と、ご主人の献身的な支えで健康状態をコントロールしています。

今年の3月に娘さんから柴犬をプレゼントされ、二人で新たな家族との生活を楽しんでいくところです。奥様が定年退職したならば「夫婦で旅行をすることが夢」とのことです。

